

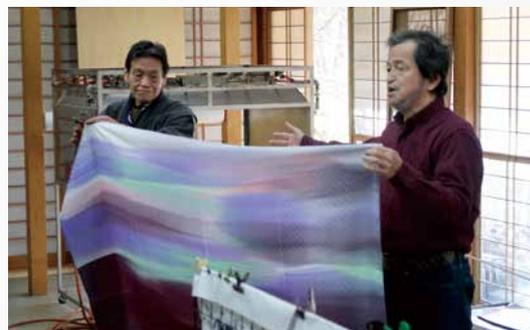
# 京都が誇るテキスタイルを世界にアピール!!

京都には、西陣織や京友禅など今日まで継承されてきた“伝統技術”が根付いています。ただ、国内市場は頭打ちとなっており、今後は海外マーケットも重要になってきています。ジェットロは12月に欧米の著名ブランドである Valentino(イタリア)、Carolina Herrera(アメリカ)、Maison Kitsuné(フランス)から生地買付け責任者(バイヤー)を招聘し、西陣織や染めの工房を視察するとともに、招聘バイヤー3名と国内テキスタイル企業とのマッチング「欧米向けテキスタイル輸出展示商談会」を開催しました。

## バイヤーも舌を巻く織り・染めの現場

12月7日にバイヤー一行は、天皇にのみ着用が許された光によって生地の色が変わる「黄櫨染」の技法を現代に再現した染色作家・奥田祐斎氏の工房を訪問。実際に白生地を染め上げる様子や同氏による作品を見学しました。

その後、西陣にて金欄緞子の袷裳などを製織している(株)山本弘商店を訪問、織機で精密に織られていく様子を視察後、渡文(株)にて着物の帯地の手織り工房を訪問。染め、織りの現場視察を通じて、京都のテキスタイルに息づく技法や伝統工芸品のルーツなどを体感いただきました。



バイヤーに説明を行う奥田祐斎氏



熱心に生地を確認する Maison Kitsuné のバイヤー(写真左から2番目)



嵐山・渡月橋を背景に集合写真

## 熱のこもった商談が展開

12月8日の商談会には、西陣織や京小紋、金欄緞子など伝統的なテキスタイルメーカーのほか、プリント生地やニット、デニムなどの生地を扱う企業計20社が出展。出展企業のブースに各バイヤーが訪問し、それぞれの商品や生地サンプルを見ながら、特徴や価格、「こんなデザインや加工はできるか?」といった質問を交えながら、活発な商談が行われました。参加企業からは、「普段では接触出来ないトップブランドとの商談チャンスで、参加してよかった」、「バイヤーとじっくり話ができて、今後の商品展開の参考となった」などの声が聞かれました。バイヤーからは、「京都のテキスタイルにかける情熱と圧倒的な技量に感激した」との評価がありました。

### 商談会担当者の声

今回が初の商談会運営となりましたが、自社商品を丁寧に説明し、バイヤーに売り込む出展企業さんの熱意をひしひしと感じました。京都のテキスタイルは、「高い(高価)、硬い、(生地幅が)狭い」といった大きな課題がある一方、よりよい商談につなげるためには、他社にはない技術やストーリーなど“ウリ”を改めて見つめ直した上で、「自社の商品であれば、このようなことができる!」といった商談相手や仕向国の市場性に“ローカライズ”した商品提案が必要だと感じました。



【問合せ先】  
日本貿易振興機構(JETRO)  
京都貿易情報センター

JETRO

所在地 / 〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町134  
京都リサーチパーク2号館2階  
TEL / 075-325-5703 FAX / 075-325-5706  
E-mail / KYO@jetro.go.jp  
URL / <http://www.jetro.go.jp/indexj.html>